

教科	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取組）	成果(○)と課題(△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい事を整理し、順序良く話すことに課題がある。 ・文章表現に抵抗を感じており、取り組みが遅かったり、書いたまま読み返さず終わりにしたりしてしまう。また、自力で作文を書くことができない児童がいる。 ・漢字テストに意欲的に取り組む児童が多い。丁寧に整った文字を書けなかったり、習った漢字を日常で使わなかったりするため、定着が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・けやきタイムを活用し、計画的に対話のトレーニングを行う。 ・作文のための構成メモ作りに慣れるよう回数を重ね、書くことへの見通しをもてるようにする。短い日記や感想を書くという機会を多く取り入れ、良い作品を紹介する。 ・新出漢字の練習時だけでなく、書写の時間を重点的に、線の長さやとめ、はね、はらいなど字形を意識させた練習に取り組む。短文作りや日記で漢字を使うことを通して定着を図る。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な計算はできるが、文章題では、問題の読み間違いや単位の付け忘れなどのケアレスミスが目立つ。 ・問題の解き方の過程をノートに書けなかったり、自分の言葉で説明することができなかったりする児童がいる。 ・数量感覚が身に付いていない。長さや水のかさの単位変換につまずく児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章題などの問題把握の際、分かっていることに直線、聞かれていることに波線を引く活動を取り入れたり、「あわせて」などのキーワードに着目するよう促したりして、イメージをつかみやすくする。 ・絵や図、表などを用いて、自分の考えを書き表したり、説明したりする経験を多く作る。ペアで話し合ってから、全体で発表することで、見通しをもって活動できるようにする。 ・実測したり実物を用いたりしながら、数量感覚を体で実感する場を設ける。その際、まず長さや量の見当をつけてから行うようにする。 	
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や植物の世話など意欲的に取り組むが継続しない子がいる。自然に触れる経験が少ないので、知識や興味関心に大きな個人差がある。 ・地域のことを知らない、地域の人とのかかわりが少ない児童が多い。 ・気づきに個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動を多く取り入れたり、電子黒板等ICT機器を活用して、写真や動画で自然を身近に感じられるようにしたりして、意欲や気づきを促す。図書も活用していく。 ・学習のめあてをはっきりさせて町を探検し、気づいたことや疑問を基に次の活動に結び付けていきながら地域の良さに気づけるようにする。 ・学習カードの良い気づきにアンダーラインを引く。発表や掲示をして友達の良さを見付け、全体で共有する活動を取り入れる。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・ボール操作の技能に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に合わせてゲームのルールを工夫した 	

	<p>(特に投げる、捕る)</p> <ul style="list-style-type: none"> 握力が弱く、ジャングルジムや鉄棒、雲梯が苦手な児童が多い。 	<p>ボール遊びを取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽しく運動に取り組めるルールの工夫をし、投げる、捕る機会を増やす。 ようにする。 学習カードを利用し、めあてをもって活動に取り組めるようにする。 自重を手で支えられるようマット運動や跳び箱運動の補助運動を工夫する。 ペアを組み、アドバイスを互いにしながら技の向上を目指す。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 拍によってリズムを唱える活動は、どの児童もできるようになったが、リズムリレーでは、リズムにのりきれず止まってしまう児童がいて音楽の流れが止まってしまう場面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> リズムボックスを利用して、ロック・サンバ・マーチ・ワルツ・ボサノバなどいろいろなリズムによって言葉を唱える活動を取り入れる。リズムによってつくった音楽を全体でリレーをする活動を取り入れる。 	
図画 工作	<ul style="list-style-type: none"> つくる方法や順番がわからない。 自分の活動に自信がもてない。 身近な自然や人工物を基に思い付いてつくる体験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 作例や見本を示し、活動の見通しをもち、自分のイメージを広げる。 自分のイメージをもつための十分な時間を保障する。 体全体をつかいながら材料とかかわる題材を設定する。 	